



セキュリティファクトシート

Adobe Creative Cloud の パートナーモデル

2026年3月



Adobe Creative Cloud のパートナーモデルについて

アドビは、大規模法人のお客様に、クリエイティブワークフローに合わせた様々なパートナー生成 AI モデルを、Creative Cloud エンタープライズ版から直接選択できる柔軟な環境を提供します。パートナーモデルを利用すると、お客様はアプリケーションやワークフローを切り替えることなく様々な美的スタイルを試すことができます。そのため、ニーズに最適なモデルを選択することが可能です。現在利用可能なパートナーモデルについて詳しくは、[アドビ製品におけるパートナーモデル](#)をご覧ください。

注意：パートナーモデルを使用してコンテンツを生成するには、[プレミアム生成 AI 機能](#)へのアクセスを含む Creative Cloud エンタープライズ版サブスクリプションが必要です。

パートナーモデルへのアクセス

アドビは、Creative Cloud エンタープライズ版エディション4およびエディション4プラスをご利用の大規模法人のお客様に、Adobe Admin Console で一元的に構成されたロールベースのアクセスを通じて、どのユーザーがどのパートナーモデルにアクセスできるかを管理できる機能を提供しています。定義済みのロールへのアクセス構成については、こちらの[HelpX](#)を参照してください。カスタムロールの作成方法については、こちらの[HelpX](#)をご覧ください。

ユーザーの認証および承認

Adobe ID 管理サービス (IMS) は、Creative Cloud、Adobe Firefly、およびパートナーモデルへのアクセス (認証と承認を含む) を管理するために使用されます。詳しくは、[Adobe ID 管理サービスのセキュリティ概要](#)をご確認ください。

データの暗号化

転送中:すべてのデータは、HTTPS 経由での転送中に、TLS 1.2 以上を使用して暗号化されます。

保存時:Adobe Firefly Services、Content Credentials、および Feedback & Ingest Services によって保存されるデータは、AES 256 ビット暗号化により保存時に暗号化されます。

セキュリティアーキテクチャとデータフロー

ユーザーがCreative Cloud アプリでパートナーモデルを使用することを選択した場合、データフローは次のようになります。

注意: Adobe Firefly モデルを使用して画像や動画を生成する際のデータフローについては、[Firefly エンタープライズ版のセキュリティファクトシート](#) (英語) を参照してください。

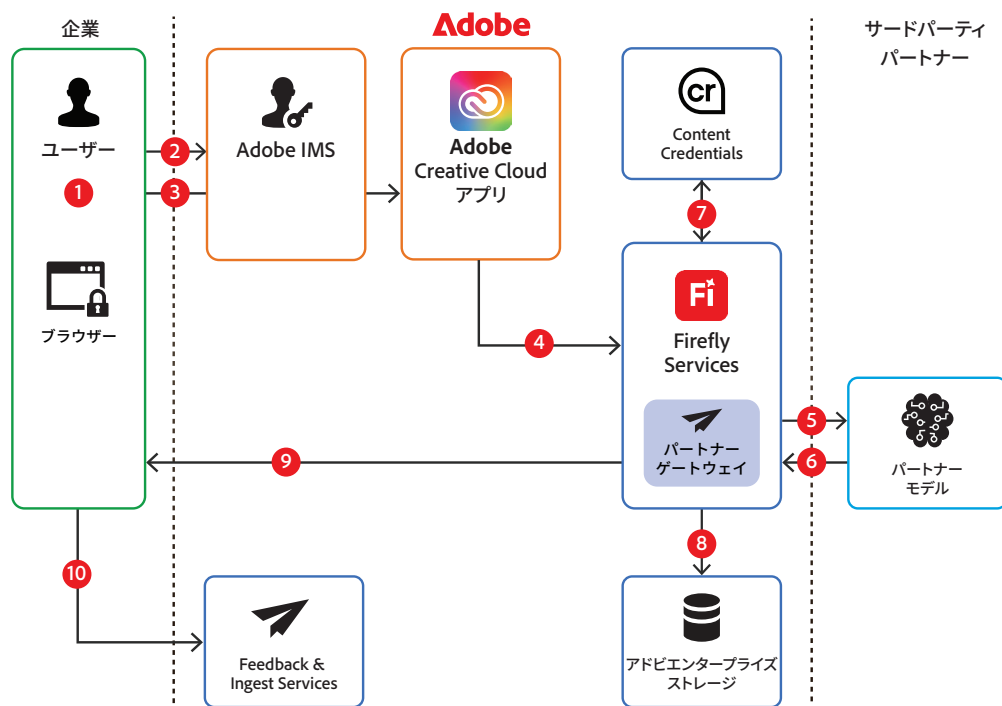


図1: Creative Cloud アプリパートナーモデルのデータフロー図

データフローの説明

ステップ1: ユーザーが、firefly.adobe.com、iOS または Android の Firefly モバイルアプリ、あるいは Creative Cloud アプリ (Adobe Photoshop や Adobe Illustrator など) を開き、ユーザー認証情報でログインします。

ステップ2: [Adobe ID 管理サービス \(IMS\)](#) がユーザーとその権限を認証します。

ステップ3: ユーザーは、生成したい画像を説明するプロンプトテキストを入力します。必要に応じて、画像や動画の生成をさらに進めるための参照コンテンツや参照画像 (スタイルや構図など) を選択することで、生成 AI アクションを開始します。さらに、ユーザーはコンテンツ生成に利用したいサードパーティパートナーモデルを選択します。

ステップ4: 選択された Creative Cloud アプリが、ユーザーのプロンプトテキストと参照コンテンツを、Firefly Services のサービスのひとつであるパートナーゲートウェイに送信し、そこでユーザーの生成 AI クレジットが検証されます。注意: パートナーゲートウェイは、ユーザーが提供した参照画像を保存したりキャッシュしたりすることはありません。

ステップ5: パートナーゲートウェイが、処理のために、選択されたパートナーモデル(サードパーティパートナーがホストしている)に情報を送信します。

ステップ6: パートナーモデルが、入力テキストと参照コンテンツ(アップロードされている場合)にもとづいてコンテンツを生成し、生成された出力をアドビがホストする Firefly Services のパートナーゲートウェイに返します。注意: パートナーモデルは、生成されたコンテンツをアドビに返却する前に保存する場合があります。選択されたパートナーモデルの利用規約をご確認ください。

ステップ7: パートナーゲートウェイは、生成されたコンテンツに Content Credentials マニフェストを生成して添付します。Content Credentials について詳しくは、[Content Credentials の概要](#)を参照してください。

ステップ8: Firefly Services が、生成されたコンテンツをアプリが管理する暗号化キャッシュに一時保存し、キャッシュされたコンテンツの署名付き URL を Creative Cloud アプリに返します。また、Firefly Services は、生成されたコンテンツとプロンプトテキスト、構成設定、および参照コンテンツを、firefly.adobe.com のファイルメニューの「生成の履歴」としてユーザーのエンタープライズストレージに保存します。

ステップ9: パートナーゲートウェイが、署名済みの出力をユーザーが使用している Creative Cloud アプリに返します。

ステップ10: この時点で、ユーザーは様々な操作を行うことができます。Firefly web アプリを使用している場合、コンテンツを別の Creative Cloud アプリ (Photoshop や Illustrator など) に書き出してアイデアをさらに練ったり、アドビ以外のアプリケーションに書き出して作業を続けたり、生成された画像についてアドビにフィードバックを提供したりすることができます。

コンテンツの保存と処理

デフォルトでは、[Creative Cloud ストレージ](#)のユーザーの生成履歴に次の情報を保存します。

- 生成された出力 (画像または動画)
- ユーザープロンプトテキストインプット
- ユーザーが選択した構成設定
- 参照画像またはその他のコンテンツ (選択された場合)

参照画像はアップロードされて処理され、最大24時間キャッシュされる可能性があります。

ユーザーが生成された画像に「サムズアップ」または「サムズダウン」を付けた場合、Feedback and Ingest Services のリポジトリに画像とユーザーのID情報が保存されます。この情報は、フィードバックアクションで提起されたポイントの評価および対処のために使用されます。

コンテンツ生成に使用されるパートナーモデルの開発者または所有者は、入力や出力を別の場所に保存することがあります。

データ保存場所

アドビは、お客様のエンタープライズタームライセンス契約(ETLA)およびアドビの製品固有使用許諾条件に従ってお客様データを保持します。

アドビは、ユーザーの所在地に関係なく、米国の東部および西部にある Amazon Web Services (AWS) データセンターで Firefly 入力コンテンツの処理とキャッシュ、場合によっては保存を行っています。

アドビは、ユーザーの生成履歴を、ユーザーにプロビジョニングされた Creative Cloud エンタープライズ版ストレージに保存します。

Content Credentials は、ユーザーの所在地に関係なく、米国東部地域の AWS データセンターに保存しています。

テストの実施

パートナーモデルの場合、モデルの所有者／提供者は、自身のモデルに対する危害およびバイアスに関するテストを実施する責任を負います。アドビはパートナーの証明書の内容を検証しません。

ご不明な点がある場合

Adobe Firefly パートナーモデルのセキュリティ体制と機能についてご不明な点があれば、アドビのアカウントマネージャーにお問い合わせください。アドビのセキュリティ対策およびコンプライアンス認証に関しては、[Adobe Trust Center](#) を参照してください。